

# 愛知学院大学歯学部倫理委員会

## 平成 28 年度第 4 回会議 次第

平成 28 年 11 月 10 日（木） 15 : 00～

### I. 報 告

1. 平成 28 年度第 3 回倫理委員会議事録（案）（平成 28 年 9 月 1 日）
2. 持ち回り審査結果について（事前送付資料）
3. 再提出状況および委員長決裁について（報告）
4. 倫理委員会講演会について
5. その他

### II. 協 議

1. 申請書類審議（事前送付資料参照）
2. 申請者との 審議・面談
3. 判定結果の決定
4. 倫理審査申請者の倫理委員会等が主催する講演会などへの出席義務化について
5. その他

平成28年度愛知学院大学歯学部倫理委員会委員名簿

◎委員長 ○副委員長

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	28.4.1-30.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
	戸 莉 彰 史	薬理学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	28.4.1-30.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
	原田 純	麻酔学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	28.4.1-30.3.31
	高木 敬一	愛知学院大学法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	28.4.1-30.3.31
	黒神 聰	元愛知学院大学法学部教授	〃	28.4.1-30.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	28.4.1-30.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学教育・研究支援部 学生支援課 嘱託職員	〃	28.4.1-30.3.31

平成28年度 第4回歯学部倫理委員会  
インターネット公表一覧

1	実施責任者	三谷 章雄
	研究課題	歯周病臨床データベースパイロットモデルの構築
	概要	公表不可
2	実施責任者	原田 純
	研究課題	口唇裂患者の全身麻酔導入時の血糖値およびケトン体濃度に関する前方視的研究:母乳あるいは人口乳による影響に着目して
	概要	低血糖状態を避けるため、乳幼児の麻酔管理にあたっては、成人よりも術前の絶飲絶食時間を短くする傾向があるが、成人よりも生理的機能が未成熟な分、全身麻酔導入時にしばしば低血糖状態であることが判明する。我々は、10kg未満の口唇口蓋裂患者における全身麻酔導入時に、安全のために血糖値をルーチンに計測している。そこで、2013年1月から2016年6月までに実施された10kg未満の口唇口蓋裂患者における全身麻酔導入時の血糖値を後方視的に観察したところ、唇裂手術を受ける6ヶ月程度の乳児では血糖値が低めである傾向を見出した。しかしながら同じ月齢、同程度の体重でも血糖値のバラツキが観察され、これは母乳または人口乳による影響ではないかと考えた。そこで今回の研究では、母乳群あるいは人口乳群を術前に明確に区別し、麻酔導入時の血糖値およびケトン体濃度を明らかにすることで、より安全で的確な麻酔管理を行うことを計画した。
3	実施責任者	夏目 長門
	研究課題	開鼻声の重症度評価へのカオス時系列解析の応用に関する研究
	概要	公表不可
4	実施責任者	栗田 賢一
	研究課題	唇顎口蓋裂患者を対象とした顎裂部骨移植における顎裂部、および骨採取部の治癒、成長に関する検討
	概要	<p>〈目的〉唇顎口蓋裂患者では犬歯を顎裂部に萌出誘導する目的で、顎裂部骨移植術を行うことが多い。当科では、脛骨より骨採取を行っている。過去の報告では骨移植部、骨採取部の治癒、成長に関してX線画像と、超音波画像を用いて評価を行った報告はない。もし、超音波画像による術後経過の評価が可能で、その経過が良好であれば、放射線被曝の少ない術後経過観察の可能性と、現在の我々の術式が正当である事が言える。そこで今回、現在のX線画像に加え、超音波画像による治癒経過、成長に関して検討し評価することを目的とする。</p> <p>〈方法〉唇顎口蓋裂患者で、術前評価、経過確認の為に撮影するX線画像および、超音波画像を用いて評価する。</p> <p>〈予想される結果〉移植骨は吸収されつつも機能的に必要な骨量を維持でき、骨採取部の成長への影響も少ないと予想される。結果、我々の術式の正当性、超音波画像での評価の有用性が証明される。</p>
5	実施責任者	有地 栄一郎
	研究課題	上顎洞陥凹の原因と画像所見に及ぼす影響
	概要	上顎洞根治術後、上顎洞は狭小化し骨に置換されて治癒することは周知の事実であるが、その理由ははっきりと分かっていない。上顎洞根治術後患者のパノラマエックス線では、パノラマ無名線の不透過性が強調され、無名線より内側上方に延長する不透過線が観察される。そのため、この所見が術後か否かの鑑別に使用されている。しかし、我々は上顎洞根治術の既往のない患者においてもしばしば同様の所見が観察されることを発見し、上顎洞の形態変化(特に前壁の陥凹)との関連があるのではないかと推察した。そこで、この内側上方へ延長する不透過線のある患者とない患者でグループに分け、CT上で上顎洞形態を比較することでその原因を探る。また、以前の研究において上顎洞内腔の容積は加齢により減少する傾向にあることが証明されている。我々はこの原因が上顎洞の陥凹にあるのではないかと考え、如何なる要因が引き起こしたものであるか、経時的なCT画像所見変化を追って考察する。